

組織の概要 (企業)

会社名

合資会社 環境ポートフォリオ研究所

所在地	〒150-0001 東京都渋谷区神宮前二丁目 34 番 20 号 TEL: FAX:03-3792-6537 E-mail:		
ホームページ			
設立年月	平成 12 年 12 月		
代表者	西岡 信彰	担当者	西岡 信彰 (ペンネーム 西岡 弘観)
資本金	20000円	従業員数	0名
沿革			
事業概要	環境の調査、解析およびその情報提供 イベント企画 出版物の編集および制作 他		
環境に関する活動実績	<p>情報の提供 提言</p> <p>1996 「地球温暖化問題に関する対策の意見」に応募 報告参考資料 p 22</p> <p>1996 地球環境パ - トナ - シッププラザのホ - ムペ - ジに応募 「地球理想環境推進世界大会 / 環境オリンピック開催をめざして」 (一定期間 掲載)</p> <p>1998 現代展望 12月号掲載 「環境オリンピックをめざして」</p> <p>1999 現代展望 7月号掲載 「環境ポ - トフォリオの発想」</p> <p>2000 政経 5月号掲載 「環境文化の輸出と日本」 共著</p> <p>2002 現代展望 1月号掲載 「都市再生 首都圏居住者への施策」</p> <p>2002 平成 14 年度 「NGO/NPO/企業環境政策提言」に応募 「ワ - ルド総合環境大会(仮称)」の構築と日本からの提唱 (1995 ~ 関係方面に提供)</p>		

売上高 (14 年度) 0円

政策のテーマ 環境ポートフォリオ的評価
自由軸と平安軸とによる統合軸の仕組み構築へ

- 政策の分野
・ 社会経済制度

団体名：合資会社 環境ポートフォリオ研究所

- 政策の手段
・ 制度整備

担当者名：西岡信彰

政策の目的

環境政策に「環境ポ - トフォリオ的評価」の視点で制度構築を期待するものである。

背景および現状の問題点

グローバル化で人の欲求は増大している。持続可能な未来のため、多様な自由選択と他方、環境負荷、相互の葛藤軋轢、内面抑圧にも配慮の統合的な評価の仕組み構築が必要である。

政策の概要

人間をとりまく理想環境は何か「現実の理想環境とは個人と集合としての集団において、その機能発揮・自由選択の多様さをできるだけ確保して(自由軸・A)しかも、その際の環境へ負荷、相互の葛藤軋轢、内面抑圧をできるだけ少なく平安を求めて(平安軸・B)その仕組み構築(統合軸 A /B)に向けて努力するプロセスの展開といえる」との見解で(例えばそれぞれの力点で A ヘーゲル B マルクス A/B 西田幾多郎)

なれば、暫定試案として

二つのベクトル(自由軸・A)と(平安軸・B)とを人の大きな四つの機能と人の意識階層に関連する社会の重層的多層構造の五つの階層で要素内容(指標)を評価し、ポートフォリオ(統合軸・A / B)を向上させる仕組みを意図的に図るものである。

政策の実施方法と全体の仕組み

環境ポートフォリオ的評価方法 (要点)

1. 統合軸・A (a1 a2 a3 ...) / B

(ヒントの多くは 西田幾多郎全集7巻 aは個別 Bは場・一般場の弁証法的発展)

その他 関連ヒント GE社のロウレンスD・マイルズの価値工学・価値分析
ドイツのワイツゼッカー博士の「ファクター4」

2. 自然界 人間社会 内的世界に 二つのベクトルがある。

敢えて区分対比も (ヒントは鈴木大拙 東洋的な見方、 和辻哲郎 風土)

A・・・遠心力 ビックバン 直線 個別 時間的・速さ 人間中心

(機会の平等 質の向上 認識力 競争 発展 繁栄 動きの激しさ・市場 葛藤軋轢の激しさも) (一神教 対立 遊牧 移動 西洋的 父性 オス)

.....個別の自由軸・A へ

B・・・求心力 万有引力 曲線 全体配慮 空間的・場 自然循環

(結果の平等 量の拡大 包容力 調和 協調 平和 静かな空間・癒しの場 停滞が続くも) (多神教 融合 農耕 定住 東洋的 母性 メス)

.....全体配慮の平安軸・ B へ

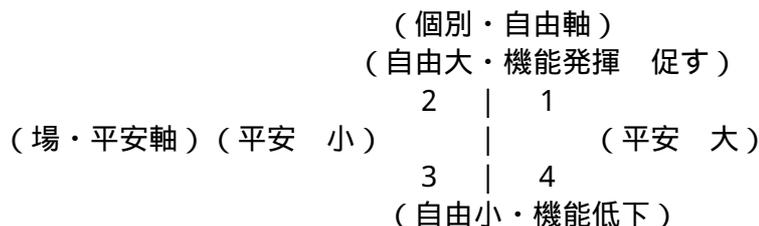
- 3・人の機能の大きな四つの分野 (人的構造で機能は多様な見方も)
 (ヒントは ユング心理学 ・・感覚 思考 感情 直感)
 (機能は潜在的なものを含めて、その発揮へ ヒントは アマルテア・セン)
- (1) 感情的なもの (感)感性 芸術 美
 - (2) 思想的なもの (思)知性 哲学 真
 - (3) 内省的なもの (内)霊性 宗教
 - (4) 行動的なもの (行) 生・歴史 善 として

- 4・人の意識階層に関連する社会(人の処世)の重層的多層構造の五階層区分
 前提 (1) 人を基準に (ヒントは ベンサム JSミル ジエームス)
 (2) 人の意識階層に重層的多層構造の上位概念への発展がある。

参考 ヘーゲル 『精神現象学』 歴史哲学 法哲学
 和辻哲郎全集 「人間(間柄)存在」の全体性・個人性に関する分析
 井筒俊彦全集 「意識と本質」の潜在意識構造モデル1~4
 ユング心理学 潜在意識の階層 (C.A.マイヤ-)
 ハルトマンの価値序列 ・マズローの欲求段階説
 その他に 人生の意識変化 修行・求道での変化 宗教の階梯意識など

- 5・五階層区分 (1)人とその集団階層 (10人・M の乗数で)
 個人・家族M1、 団体M3、 地域M5、 民族・国家M7、 地球M9
 (2) 価値と意識 (階層内で 多くの項目で A/B 分析も)
 快・不快感VM1、 財・損得VM3、 ルール(特定の団体・地域)VM5
 善悪(場限定と短期間)VM7、 正義(場の無限定と長期普遍)VM9、

6・理想環境は第1象限



- (1) 評価は(自由軸 A)と(平安軸 B)の 二つの軸で
 人間全体をとりまく環境は大きな次元で
- (2) 統合軸の仕組み 参考 例
 第1象限に・・・民主主義(フクヤマの歴史の終わり) 民主主義国家間では戦争回避(猪口) 基本的人権/ 環境負荷・生命維持の負担少ない体制 安全 安心 健康維持 経済基盤の確立/ 連帯・信頼の確立 公教育 社会変動への対処教育/ 社会奉仕 安らぎ・美的・時空間提供/ 心の教育(自己責任・自助努力・プラス思考、認識力・包容力の拡大・倫理・情操・愛・財以外の多層的に多様な階層的な価値観を(メディア・イベント・顕彰・資格で推進)オンリーワン 財について 足るを知る・80%主義・中庸
- (3) 第3象限に特に該当する事象を少なくする努力
 (第1象限の ほぼ逆)
 (第2象限・資本市場 第3・専制政治(ハイエク) 第4・共産主義・原始
 (A・理想的なものを見出し、B・普遍化する、仕組みに、M1~M9が参加・参加意識が得られるための方策・目標 方法公開 体験へ、
 理想世界推進への全体と個の目的理念、目標が相互に緊密に反映される策を

政策の実施主体（提携・協力主体など）

「環境ポ - トフォリオ評価」 提言と具体例評価

1. ワ - ルド総合環境大会（仮称）～環境オリンピックをめざして～（平成14年提言）多くの分野・部門・・・努力するプロセスとして一定期間のフロ - の変化に注目を（自由軸 A）規模は・・・個人・家族（行）M1～～国家M7 それぞれの個別努力地球規模でのイベント価値（感 思 行）VM1～～～VM9 参加と達成感・・・個別の機能発揮を促すのではないか（負の部分・・・（行）M3 事務・経済負担 VM3 損得（平安軸 B）地球規模での協体制へ（行）（感）（思）M1～M9 新たなパラダイム認識 インタ - ネットで情報共有 協調思考へ資金調達など制度への理解（行）（感）（思）VM1～VM9・・・全体の平安に寄与するのではないか（負の部分・・・（感）M5 地域程度の羨望 VM1 不快感も、このために実施は漸進的に 例 既存の冠頭賞～希望団体参加～対象細分化～
2. 環境教育の特別区（受入自治体で構想を）都市圏の希望校は一定期間を自然環境学習に 十分な感覚体験を（シュタイナ - ）（例）北海道へ 小学5年 中学2年の3月間 学年全体で留学（自由軸 A）個人・家族（感 思 行）M1 VM1～VM7 自助努力北海道の観光振興（行）M5 VM3（負の部分・・・（行）M1～M3 VM1～VM3 経済負担（平安軸 B）地域M5 環境配慮・非行を防ぐ人を傷つけないVM1～VM7（負の部分・・・ほぼなし 学年全体であれば羨望もなし（注・・・教育について 日本環境先進国A/B に力点を（例）a国の早期英才教育Aに力点 b国の宗教教育Bに力点
- 3の1. 首都圏外周に半円形状の環境森林100年構想（首都圏連合体で構想を）多摩川から入間川、荒川 そして利根川へ 両岸の幅 1キロ程に自治体と住民で植樹100年後には森林を維持管理コストに配慮・・・例 明治神宮の森（本多）鎮守の森（宮脇）
- 3の2. 東京都心の公園をつなぐ公園風遊歩道50年構想（東京都で構想を）車優先から歩行者への配慮例えば、多摩川から砧緑地そして代々木公園・新宿御苑から中央線沿いに飯田橋付近から皇居の外周を経て隅田川へ特定の車道を段階的に/時間制限/片道のみ走行/片道に植栽/さらに居住者のみ車進入可へ（自由軸 A）（感 行）M1～M5 VM1～VM7 個別の附加価値向上へ（負の部分・・・（行）M1～M5 VM1～VM5 一時経済負担 動低下（平安軸 B）（感 行）M1～M5 VM1～VM7 景観 防災 癒し永続的（負の部分・・・（感 行） M1～M3 一時完成まで（例えば・・・景観については 日本の象徴的な場は地球規模で観光の魅力（感）VM9 地域振興・企業の経済利益（行）VM3であり高層建築は比較して配慮したい。（注）個別の評価基準についてはアンケート方式で決定し、グラフ作成（二軸と正負の4点で面の構成）階層内に多項目、時間の三段階、解析もより明確となる。

政策の実施により期待される効果

持続可能な制度構築へ 評価指標、みなし仕組みの対比、の明確化が期待される。

その他・特記事項

なし